

道徳科実施上の課題についての研究 —中学校学習方法とその評価方法について—

久田 剛志（生涯スポーツ学科 学校スポーツコース）

指導教員：谷川 尚己

キーワード：道徳教育，学習方法，評価方法

1. 緒言

文部科学省¹⁾は、平成27年3月27日、学校教育法施行規則の一部を改正する省令、道徳に係る小学校、中学校、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の一部を改正する告示及び移行措置に係る告示を公表した。道徳は「道徳の時間」から「特別の教科 道徳」（道徳科）として新たに位置付けた。小学校は、平成30年度、中学校は平成31年度から検定教科書を導入して「道徳科」を実施する。「道徳科」に変わることによって、教員の指導力向上や授業での「評価」もされる。

そこで道徳教育をめぐる現代的な動向をおさえることで、この先実施される「特別の教科道徳」の実施上の課題について、筆者が中学校の教員志望であるため中学校に着目し、その学習方法と評価方法について研究にすることを目的とした。

2. 研究方法

滋賀県内3中学校の教職員54名に対して、①現在、実施されている道徳授業の指導（学習）上の課題について、②新たに始まる「特別の教科道徳」は何が問題（疑問）であると考えますかについて、③今後新たに始まる「特別教科道徳」課題は何ですかについて学年担任を持つ3年・2年・1年とその他（学年担任を持たない教職員）に分け、生徒の道徳に対する興味・関心が薄い、評価が難しいのではないかと、指導と評価の一本化をどのように具体化するのか等の14項目についてアンケート調査を実施した。

3. 結果と考察

①現在、実施されている道徳授業の指導（学習）上の課題は各学年で割合が高いのは生徒の道徳に対する興味・関心が薄いのが3年生、2年生、その他が該当したことから道徳授業内の生徒の反応に充実な効果を得られていないと教職員が感じたのだと考える。1年生は教材研究する時間がない（自作資料作り）ことから全ての価値項目についての授業をすることにしばられ、今必要な教材を自由に使うことが難しくなっていることや生徒に効果が表れたのかどうかが見えにくいと道徳授業について教師が学べる機会が少ないのだと推測される結果となった。②新たに始まる「特別の教科道徳」は何が問題（疑問）は評価が難しいで各学年該当が一致したことから評価に対してより具体的にしていく必要はあると考える。③今後新たに始まる「特別教科道徳」課題は教科としての評価をどうするのかで各学年該当が一致したことから生徒自身の自己評価と自己指導の一本化につなげる指導が求められると推測する。

4. まとめ

「考え、議論する」道徳科への転換により児童・生徒の道徳性を育むため、教員の指導力向上、教員養成や研修の充実について検討と評価について専門家会議を設け、専門的に検討すべきだと考える。

【引用・参考文献】

1) 文部科学省(2015) 道徳教育の根本的改善・充実